

平成28年度

教育委員会の事務執行に関する評価

(平成27年度対象)

平成28年8月26日

みやこ町教育委員会

目次

みやこ町教育委員会の自己点検・評価

I	教育委員会の活動	3
II	教育委員会が管理・執行する事務	6
III	教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	9
1	学校教育における学習環境の充実	10
2	生涯学習のための環境整備	30
3	図書館の整備・充実	38
4	博物館・文化財の整備・充実と芸術文化の振興	46
5	スポーツ・レクリエーションの推進	57
	外部評価委員会の所見	66

教育委員会の事務執行に関する評価の概要

1. 教育委員会の事務の点検・評価制度について

平成 20 年 4 月から施行された『地方教育行政の組織および運営に関する法律』の一部改正により、教育委員会は、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理および執行の状況について、自己点検および評価を行い、報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

みやこ町教育委員会では、地域の教育課題や教育ニーズに応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これらに基づいて実施した政策について、その必要性、効率性等の観点から自ら点検・評価・公表することは、町民に対する説明責任を果たすことにより、町民の信頼を高め、開かれた教育行政を推進していく上で非常に重要なことと考えております。

このことを踏まえて、平成 27 年度の教育委員会活動を

- I 「教育委員会の活動」
- II 「教育委員会が管理・執行する事務」
- III 「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」

の 3 点から、教育委員会自らがその進捗状況・達成状況等について、点検・評価を実施し、報告書を作成しました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

評価判断基準		
A 達成できた	B おおむね達成できた	C 達成できなかった

みやこ町教育委員会の自己点検・評価

I 教育委員会の活動

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
(1) 教育委員会の会議の運営改善	①教育委員会会議の開催回数	A	○定例会を11回、臨時会を6回実施した。	
	②教育委員会会議の運営上の工夫	A	○教育委員会の会議における案件については、事務局により提案し、学校教育課長及び生涯学習課長、学校給食課長が説明をし、詳細については、それぞれの係長が補足説明を行っている。	
(2) 教育委員会会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	①教育委員会会議の傍聴者の状況	B	○傍聴者1名 ホームページに開催日時を掲載し、傍聴を促している。	●インターネット接続者のみの広報では不十分である。定時放送等の活用を望む。
	②議事録の公開、広報・公聴活動の状況	B	○議事録は、情報公開条例に基づいて公表するようにしている。 ○教育委員会議事録をホームページに掲載し公表している。	
(3) 教育委員の自己研鑽	① 研修会への参加状況	A	○県内で開催された教育委員を対象とした研修会に参加した。	●研修会参加後の報告や復命を確実に言い教育委員全

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 県市町村教育委員会女性教育委員研修会 ・ 県市町村教育委員教育委員長研修会 ・ 県教育委員新任委員・教育長等研修会 ○京築地区で開催された教育委員対象の研修会に参加した。 ・ 京築地区市町村教育委員会教育委員研修会 ・ 教育委員会教育委員等人権教育研修会 ○全国で開催された教育委員対象の研究協議会に参加した。 ・ 市町村教育委員会研究協議会(奈良県奈良市) 	<p>員で共通認識するなどの手立てを実施していただきたい。</p>
<p>(4) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備</p>	<p>①学校訪問</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○7月8日に祓郷小、豊津中、みやこ伊良原学園中を訪問した。 ○昨年度から教育事務所の要請学校訪問が小中連携形式で複数回実施されており、これに併せて教育委員の学校訪問(上高屋小、城井小、黒田小、節丸小、犀川中)を行った。 ○卒業式、入学式、運動会等学校 	<p>●学校訪問の内容を総括し、それを訪問校へ還元するなどして、学校の改善等に資するよう努めていただきたい。</p>

			<p>行事、合唱コンクール、弁論大会に参加した。</p> <p>○学校の研究発表会（豊津中、犀川小、柳瀬小、勝山中）に参加した。</p>	
	② 所管施設の訪問	B	<p>○各施設で行われる学校行事、生涯学習課行事、体育協会、育成会の行事に積極的に参加し、施設の状況や活用状況を確認した。</p>	<p>●学校行事だけでなく他の機会にも積極的に参加し、施設の状況や活用の状況を確認されたい。</p>

II 教育委員会が管理・執行する事務

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること		A	○みやこ町教育施策について、 審議を行い、策定し、各学校 に配布した。	
(2) 教育委員会規則及び規定を制定し、又は改廃すること。		A	<ul style="list-style-type: none"> ・みやこ町立学校教職員の職務に専念する義務の特例に関する規制の制定について ・みやこ町教育委員会の公印に関する規制の一部改正について ・みやこ町指導主事設置規則の一部を改正する規則の制定について ・みやこ町図書館規制の一部を改正する規則の制定について 	
(3) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること		A	<ul style="list-style-type: none"> ○教育委員会に新年度の主要な予算について報告。 ○条例の制定・改正及び廃止については教育委員会の議決を得ている。 ・みやこ町歴史公園条例の一部を改正する条例の制定について ・みやこ町歴史民俗博物館駐車 	

		場条例の制定について ・みやこ町立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について	
(4) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止すること		○ 該当なし。	-
(5) 県費負担に係る教職員の人事の内申に関すること	A	○管理職人事、人事異動に係る内申を行った。	●優秀な人材の確保に努めていきたい。
(6) 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱に関すること	A	○職務の遂行が期待できる適任者の選定に努めた。 ・学校評議員 ・外部評価委員 ・学校医・学校歯科医・学校薬剤師 ・学校 ICT 教育推進委員 ・みやこ町通学路安全対策推進協議会委員 ・みやこ町学校給食センター運営委員 ・みやこ町学校給食物資選定委員 ・みやこ町学校給食献立委員 ・みやこ町歴史民俗博物館運営委員 ・みやこ町歴史民俗博物館専門	●町民の人材情報を各方面から収集するなどして、適材適所の任命がおこなわれるよう努めていきたい。

		委員 ・みやこ町文化財保護委員 ・みやこ町スポーツ推進委員 ・みやこ町スポーツ推進審議会委員 ・みやこ町図書館協議会委員 ・みやこ町子ども読書活動推進協議会委員	
(7) 教科用図書の採択の決定に関する事	A	○平成 28 年度中学校使用教科書の採択に関する第 13 地区教科書採択協議会が開催され、学校意見を聴取し、採択した。	
(8) 通学区域を設定し、又は変更すること	/	○該当なし。	-
(9) 文化財を指定し、又は指定を解除すること	/	○該当なし。	-
(10) 請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関する事	A	○中学校における生徒間暴力に係る訴訟。 和解 6月	

Ⅲ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

子どもたちが、ふるさとで学び、育ちそして大人になった時ふるさと・みやこ町への愛着と誇りとともに、平和を愛する気持ちを持ち続けることが大切だと考えます。

そのため、生命を大切に作る心を育てる教育の推進、「みやこ」ならではの文化を活かした活動や、学力の充実・向上家庭の子育て支援などにより、次世代を担う子供を育てていきます。

また、生涯学習の推進に当たっては、住民一人一人のさまざまなニーズに応じて、住民が主体的に、“いつでも・どこでも・だれでも・なんでも” 学ぶことができる学習の場づくりや情報提供を行います。

さらに、地域に伝わる歴史や伝統文化を継承し、活用するとともに、住民の主体的な文化・芸術活動を支援し、文化の薫り高いまちづくりに努めます。

※ 評価項目は、「みやこ町総合計画 後期基本計画 2012－2016 交流と連携により とともに夢を描く 共生・協働のまち」の基本計画に示された主要事業及び教育委員会で策定した「平成 27 年度みやこ町教育施策リーフレット」の主要事業をもとに作成しています。

有効性	効率性	達成度	総合評価
事業が目標達成に有効であるかを評価する。	事業が効率的に実施できたかを評価する。	計画通り達成しているかを評価する。	3つの評価項目を勘案し、総合的に評価を行う。
評価判断基準			
A 有効である	A 実施できている	A 期待を上回る	A 達成できた
B おおむね有効である	B おおむね実施できている	B おおむね期待どおり	B おおむね達成できた
C あまり有効でない	C 実施できていない	C 期待を下回る	C 達成できなかった

1 学校教育における学習環境の充実

<p>施策の方針</p>	<p>社会環境や家庭環境の変化が進む中、生きる力（確かな学力、豊かな心、健やかな身体）を育む教育をめざし、また適正な学習環境を確保するため、学校施設を整備し、特色ある教育を推進します。家庭・学校・地域・行政の連携を強化し、児童・生徒の安全確保、地元農産物を利用した学校給食の充実を図ります。</p>						
<p>主要施策</p>	<p>主要事業</p>	<p>内容・成果</p>	<p>評価</p>				<p>外部評価</p>
			<p>有効性</p>	<p>効率性</p>	<p>達成度</p>	<p>総合評価</p>	
<p>学校教育の充実</p>	<p>基礎学力向上に向けた教育の充実</p> <p>生きる力の育成促進</p>	<p>○ 町雇用常勤講師を配置した。 【少人数学級】 豊津小 1 名（3 年生）</p> <p>○ 町雇用非常勤講師を配置した。 【複式対応】 諫山小 1 名、節丸小 1 名、柳瀬小 1 名、上高屋小 1 名、城井小 1 名、伊良原小 2 名</p> <p>【教科指導】 勝山中 3 名、豊津中 3 名、犀川中 3 名 総計 16 名</p> <p>○ 県費補助事業を活用して、小学校の 1 年生から 4 年生までの全児童に国語及び算数のドリルテキストを購入・配布し、学力向上に取り組んだ。</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>●学力向上に向けた多様な取り組みの結果、おおむね改善傾向にあると判断する。</p> <p>●中学校の「教科指導」の配置について、これまでの活用内容とその成果を確認し、一層有効な手立てを検討していただきたい。</p> <p>●土曜学習講座は、一定の成果を挙げていると判断する。</p> <p>●学校再編とそれに対応した教員配置が今後の重要な課題となっているた</p>

		<p>(5年及び6年生は県作成の問題集を活用)</p> <p>○町予算による習熟度テストを実施し、各学校がその成果を収集・分析し、教員の授業改善や生徒の進路指導等に生かした。</p> <p>○みやこ町立小中学校教員を対象に町主催の授業実践力強化講座を2回実施した。(参加41名)</p> <p>○町雇用講師の指導力向上のため、若年教員を中心に指導主事による学校現場での指導や研修会を実施した。</p> <p>○国庫補助事業を活用し、塾に行っていない中学校2年生及び3年生を対象に中学生土曜学習講座を3地区で年17回実施した。90人中学生在受講した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○部活動の練習や試合と重なる時は受講生が少なくなってしまう。</p>					<p>め、そのことが現状への対応を不十分にしている面がある。</p> <p>●小中一貫・連携教育などに関連する町独自の研修も工夫し、教師の意識改革や教育スキルの向上を図るよう期待する。</p>
	心の教育の推進	<p>○行橋市の適応指導教室と連携を図り、不登校児童生徒2名の支援を行った。</p> <p>○各中学校校区単位で清掃活動を実</p>	A	B	A	A	<p>●「校内適応指導教室」の設置や他団体との連携等も検討し、不登校児童生徒への支援を引き続き</p>

		<p>施した。</p> <p>○小・中学生の読書推進を図るために、小中学生読書リーダー養成講座を3日間にわたり実施した。(参加人数：小23人、中6人)</p> <p>≪課題・今後の方向性≫</p> <p>○今後も継続していきたい。</p>					おこなっていただきたい。
	健やかな体の育成	<p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から、みやこ町の現状と課題を整理し学校に情報を提供した。</p> <p>○体力向上を図る「1校1取組」を実施した。</p> <p>○「1校1運動の取組」の定着を図り、意図的な小中学校の体力向上を図った。</p> <p>○食物アレルギーの児童が在籍する学校を対象に学期に1回の「食物アレルギー情報交換会」を実施した。</p> <p>○食物アレルギーの児童生徒の保護者を対象とした教育相談を実施した。</p> <p>○「みやこ町食物アレルギー研修会」を実施し、学校での食物アレルギー</p>	A	B	A	A	<p>●「1校1取組」をはじめ、体力向上に積極的に取り組んでいることを評価する。</p>

		<p>一の対応を具体化した。</p> <p>○就学時検診時に保護者からの聞き取りを行い食物アレルギーに係る新入学児童の実態把握を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○定期的な情報交換会の実施やきめ細かな教育相談の実施により食物アレルギーによる事故の防止に努める。</p>						
	学習環境の確保	<p>生徒指導体制の充実</p> <p>○指導主事を教育委員会に2名体制で学校訪問、電話相談、面談等を実施した。</p> <p>○小学校及び中学校に児童・生徒対応講師を配置した。</p> <p>【常勤】</p> <p>・豊津中 1名</p> <p>【非常勤】</p> <p>豊津小1名</p> <p>○町雇用でスクールソーシャルワーカーを雇用（週1日）し、必要な学校の児童・生徒、保護者の対応を行った。</p> <p>○教育相談員1名を配置し、毎日学校を巡回指導し、指導に関する助言を行うとともに関連機関との連</p>	<p>○指導主事を教育委員会に2名体制で学校訪問、電話相談、面談等を実施した。</p> <p>○小学校及び中学校に児童・生徒対応講師を配置した。</p> <p>【常勤】</p> <p>・豊津中 1名</p> <p>【非常勤】</p> <p>豊津小1名</p> <p>○町雇用でスクールソーシャルワーカーを雇用（週1日）し、必要な学校の児童・生徒、保護者の対応を行った。</p> <p>○教育相談員1名を配置し、毎日学校を巡回指導し、指導に関する助言を行うとともに関連機関との連</p>	A	B	A	A	<p>●指導主事及び児童生徒対応教師の配置、並びにスクールソーシャルワーカー（SSW）の活用もおこない、生徒指導体制の充実に取り組んでいることを十分に評価する。</p>

		<p>携を行った。</p> <p>○スクールアドバイザーを町予算で確保し、児童生徒等の対応に対して、必要に応じ活用した。</p> <p>利用学校：小学校1校3回、中学校1校5回 対象児童生徒：14人</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○児童・生徒の行動面に落ち着きが出来つつある。今後も継続していきたい。</p>					
	特別支援教育の充実	<p>○特別支援学級での特別に支援を要する児童生徒が在籍する学級に対し、介助員を配置した。</p> <p>諫山小1名、黒田小1名、犀川小1名、勝山中1名</p> <p>○文部科学省指定委嘱「インクルーシブ教育システム構築モデル事業（スクールクラスター）」の2年次の実践を実施した。</p> <p>○通級による指導では、犀川小学校（8人）を拠点校として巡回による通級指導を、勝山地区及び豊津地区の小学校を対象に実施した。</p> <p>【巡回による通級指導】</p> <p>諫山小（4人）、久保小（2人）、黒</p>	A	B	A	B	<p>●通級指導、交流教育など、特別支援教育の充実への取組みはほぼねらい通り実施されていると判断する。</p> <p>●巡回による通級指導は、保護者や児童にとって通学の負担が少なくなり学習活動により専念でき効果が期待される。継続実施を期待する。</p> <p>●適正就学についても、細やかな対応がおこなわれていると判断する。</p> <p>●特別支援に係る関連部</p>

		<p>田小（6人）、豊津小（6人）、祓郷小（1人）</p> <p>○みやこ町教育支援委員会（旧就学指導委員会）を5回開催し、57人の児童生徒の適正就学について審査した。</p> <p>○「みやこ町特別支援研修会」を2回実施した。</p> <p>○介護福祉課、健康づくり課、社会福祉協議会、保育園等と連携し、支援の必要な新就学児童の情報収集や、情報の共有を図った。</p> <p>○療育教室に通っていた新就学児童（11人）の学校（5校）への情報提供及び支援のアドバイスについて療育指導者と学校訪問を行った。</p> <p>○「障害のある児童の居住地校交流」を年間2回、勝山中学校、伊良原中学校で実施した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○小・中学校特別支援学級及び、通常の学級に在籍する特別に支援を要する児童に対する支援が進み、特別支援教育の充実が図られた</p>					<p>署や団体・機関との連携・協働も引き続き実施していただきたい。</p>
--	--	--	--	--	--	--	---------------------------------------

		<p>○通級による指導に係る学校や保護者の理解や周知が進んだ。</p> <p>○中学校に通級指導教室を設置し、「通級による指導」の実施が必要である。</p>					
	世代間、地域間交流による地域に開かれた学校づくりの推進	<p>○小中学校が発行する「学校だより」を広報誌と一緒に地元住民等に定期配布している。</p> <p>○全小中学校のホームページを公開している。</p> <p>○小中連携教育の様子を町のフェイスブックで公開している。</p> <p>○地域住民など外部の指導者の講師予算を措置し、音楽・習字・読書活動・農業体験等、学習活動の支援をしてもらい、教育活動の充実を図った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も内容の充実を図っていきたい。</p>	A	B	B	B	<p>●「学校だより」の紙面の改善（読みやすさ、わかりやすさ）を期待する。</p> <p>●HPの更新が遅く、学校活動がタイムリーに広報されてない学校が多い。</p> <p>●地域の人材（教育力）の活用を一層進めていただきたい。</p>
特色ある学	小中一貫教育の推進	<p>○町内3地区で小中連携教育推進事業を行い、小中学校の連携を推進した。</p> <p>○小中一貫教育指定校事業を継続して実施した。(26年度より3年間)</p>	A	B	B	B	<p>●学校再編と歩を合わせ、教員免許状の問題や教育課程充実など検討を重ねていただきたい。</p> <p>●小中一貫教育に対する</p>

	校づくりの推進	<p>○小中一貫教育に関する研修会を実施した。(10月、44名)</p> <p>○定期的に各中学校区の間組の交流を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○毎年、小中連携が浸透してきているように思われる。今後も継続して実施していきたい。</p>					町施策の内容等について、町住民に対するアカウンタビリティを果たしていただきたい。
	国際感覚を養う教育の推進	<p>○小学校英語活動、中学校英語科において外部講師による支援を実施した。</p> <p>○小学校において、小学1年生から外国語活動に取り組めるように英語指導者による指導時間の予算を確保し、指導者による全11校合計1,059時間の外国語活動の授業と、犀川地区の小学生による英語活動学習発表会を実施した。</p> <p>(参加人数：147人)</p> <p>○中学校において、町雇用ALTを活用した英語授業を実施するとともに、英語スピーチコンテストを実施した。スピーチ発表者22人のうち、11人が自作によるスピーチを行った。</p>	A	B	A	A	●着実に取り組み、成果を積み重ねてきていると判断する。

		<p>○昨年に引き続き、小学校教諭を対象とした外国語指導者研修会を実施し、外国語に対する指導の向上を図った。(17人参加)</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も継続していきたい。</p>					
	ICT教育の推進	<p>○デジタル教科書活用研究指定事業（小学校）及び電子黒板活用研究指定事業（中学校）を実施し、電子黒板、タブレット等の機器を事業申請選考者に貸与して、ICT機器を積極的に活用した授業に取り組んでもらっている。(小学校：32人、中学校：6人)</p> <p>○電子黒板を使った公開授業の取り組みを行った。(黒田小、祓郷小、豊津小、犀川小、勝山中、犀川中)</p> <p>○みやこ町ICT教育に関する研修会を福岡教育センターの講師を招聘し、上記事業に取り組んでいる教職員を中心に研修を行った。(小学校20人、中学校6人)</p> <p>○熊本市で開催された学校教育情報化フォーラムに参加し、ICT教育先進自治体や学校の取り組みにつ</p>	A	B	B	B	<p>●ICT教育の推進は、アクティブラーニングなど教育内容・方法の改革にとって必要不可欠。財政的な課題もあるが、教師の活用範囲を広げ、スキルを向上させる手立てを検討されたい。</p>

		<p>いて研修した。(教職員 6 名参加) ≪課題・今後の方向性≫ ○学校の I C T 機器を活用した教育が浸透しつつある。今後もハード面の整備とともに、教員の研修にも力を入れていきたい。</p>					
	キャリア教育の推進	<p>○町内の 1 小学校をキャリア教育の研究校として指定した。研究の成果は町内の小学校だけでなく、中学校にひろげ、小中の連携を図った。</p> <p>○学校・地域・保護者が連携して、小学校段階から職場体験をはじめ、多くの体験活動を行い、児童の自立心の向上を図った。</p> <p>≪課題・今後の方向性≫ ○今後も小学校段階からのキャリア教育を推進し、「自分のよさに気づき、なりたい自分を見つけ、志を持って成長していく子ども」を育成したい。</p>	A	B	A	B	<p>●キャリア教育資定校の実践を中心にして推進を図っている。継続を期待する。</p>
学校施設の整備・充実	小中学校耐震等安全整備	<p>○学校要望・現況調査により、学習環境の維持・改善に必要と判断したのに対し工事及び修繕を行った。</p>	A	A	B	B	<p>●老朽化が目立つ学校が多い。きめ細かな点検、修理を心がけていただきたい。</p>

		<p>○27年度の主な工事一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊良原小中学校建設工事 ・屋内運動場天井撤去工事 (5小学校、1中学校) ・伊良原小学校解体工事 ・洋式トイレ設置工事 (2小学校、1中学校) <p>○27年度みやこ町各小・中学校 修繕件数153件</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○学校の老朽化（築35年以上が小学校9校、中学校3校）が進み、大規模改修等が必要な学校が増加している状況である。</p> <p>○これからも児童生徒の安全確保を最優先に必要な安全対策を行うとともに学校再編の方向性を早急に進める。</p>					
施設充実に特色	統廃合等整備の推進	<p>○平成27年4月、小中学校施設の耐力度調査を実施し、犀川・豊津小学校の校舎が防衛施設周辺防音事業補助金の採択の見込みとなる。</p> <p>○学校在り方委員会の答申や学校再編整備計画策定委員会の答申、体</p>	A	A	A	A	<p>●学校の再編、統廃合に関し、他市町も含め今後入学してくる幼児の保護者の意見が重要である。学校の減少が児童の入学減少をまねかないよう、魅力のある再編計画の作</p>

	ある 学校 施設 設備		<p>力度調査の結果等を参考にしながら、町組織（学校再編推進プロジェクト、政策調整会議）で協議を重ね、平成28年2月に「みやこ町学校再編整備について」を発表する。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○平成28年度より犀川小学校建替事業を実施、豊津地区の再編整備事業の検討を行い、犀川・豊津地区の小中学校で保護者会を実施する予定。</p>					成と実行を期待する。
	ICT 機器の 導入等教育 環境の充実	<p>○みやこ町学校 I C T 教育推進協議会を開催し、次年度整備予定の勝山・豊津地区のパソコンの入替整備について入替機種等を検討した。</p> <p>○伊良原小中学校舎の完全無線 L A N 化を実施し、校務用パソコン及びタブレット端末の整備を行った。(校務用：15 台、タブレット小中各 9 台)</p> <p>○再編交付金を活用して、電子黒板セット（タブレット、書画カメラ、マグネット式スクリーン）23 台を</p>	A	B	A	B	●ICT 機器の導入とともに、機器の効果的活用のための教員の意識向上及びスキル獲得を促す手立てを検討・実行願いたい。	

			<p>整備した。(前年度 18 台整備)</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も補助事業等を有効活用し、全国的な整備状況を参考にしながら、ICT機器の整備を推進して行きたい。</p>					
児童・生徒の安全確保	地域・学校の連携強化	あいさつ運動の推進	<p>○月 1 回、防災行政無線を通じて住民を含め「あいさつ運動」啓発を行っている。</p> <p>○週 2 回（月・水）に役場職員による中学校でのあいさつ運動を継続している。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も子どもたちの安全確保や健全育成のため、学校やPTA等と一体となって取り組んでいきたい。</p>	A	B	A	A	
		スクールボランティア、スクールガードリーダーの育成及び実践	<p>○スクールガードリーダーを各地区（旧町単位）に 1 名ずつ配置し、児童・生徒の安全確保に努め、活動報告書を月に 1 度提出させた。</p> <p>また、不審者情報等あった場合は、スクールガードリーダーに連絡し、注意をしながら見守りを行うよう徹底させた。</p>	A	B	A	A	●安全確保のために実効性のある事業である。

		<p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○スクールガードリーダーがより役割を果たせるように関係機関との連携強化を図る。</p>															
	日常的、継続的な学校防犯体制の整備	<p>○「子ども110番の家」の新規登録者を、学校を通じて募集するとともに、必要に応じてステッカーを配布した。</p> <p>○安全見守り隊(99人)、子ども110番の家登録者(460戸)の傷害保険に加入した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○安全見守り隊の新規加入者の促進を図る必要がある。</p>	A	B	A	A	●実効性のある事業と判断する。										
	スクールバスの運行、通学区の見直しによる活性化	<p>○事務の効率化や関係機関との連携を密にすることで、安全でスムーズなスクールバスの運行を行うとともに通学区の見直しも検討する。</p> <p>・27年度スクールバス利用者数</p> <table border="0"> <tr> <td>犀川小学校</td> <td>39名</td> </tr> <tr> <td>柳瀬小学校</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>のびのび幼稚園</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>のぞみ保育園</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>犀川保育所</td> <td>1名</td> </tr> </table>	犀川小学校	39名	柳瀬小学校	7名	のびのび幼稚園	9名	のぞみ保育園	1名	犀川保育所	1名	A	B	B	B	
犀川小学校	39名																
柳瀬小学校	7名																
のびのび幼稚園	9名																
のぞみ保育園	1名																
犀川保育所	1名																

			犀川中学校 3名 伊良原小・中学校 14名 計 74名 ≪課題・今後の方向性≫ ○現在、学校再編の課題にもなっている通学手段の確保について、関係機関（総合政策課等）と連携して今後について検討する。 ※町総合政策課：今後のみやこ町の生活交通の在り方について、検討中。					
家庭教育の推進	保護者の家庭教育の充実	家庭地域と連携した生活、学習習慣の形成	○ふくおか学力向上推進事業を活用して、「家庭学習の習慣を身につけよう」、「Noテレビ・Noゲーム」、「STOPスマホ」のリーフレットを全保護者に配布し、家庭での学習環境への啓発をおこなった。 ≪課題・今後の方向性≫ ○今後も学校や保護者と連携しながら、家庭での学習環境の充実を図っていきたい。	A	B	B	B	
山村留学の推進	山村留学の担い手となる人材の参加促進と人材							※平成27年度は、事業の計画がなかったものとして、平成28年度の外部評

	育成							価では評価事項から外しています。
学校給食の充実	学校給食センターの整備・充実	安全でおいしい給食の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食センターより町内の全小中学校に配食を実施した。 ○温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べられるように二重構造の食缶で配食した。 ○調理員を対象に衛生研修会を年に3回実施した。 ○配膳業務担当者を対象に衛生研修会を4月に実施した。 ○作業マニュアルを作成し、衛生管理の徹底と調理技術の向上のため、マニュアルに沿った作業を行っている。 <p>《課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今後も衛生面に注意し、おいしい学校給食を提供していく。 	A	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ●町内児童生徒の朝食摂取率（90%以上）なども把握しながら、また衛生面にも注意しながら、着実な取り組みが実施されていると判断する。
		米飯給食の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○平成25年4月から給食センターでの米飯給食を週1回増やし週4回実施している。 ○実施回数は155回で1日当たり123キログラムの19トンのお米を全て「みやこ町産」を使用している。 	A	A	A	A	

		<p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も週4回の米飯給食を継続していく。</p>					
	地場産農産物の利用促進	<p>○地場産農作物の利用促進を図るために関係機関との連携を深め、学校給食小委員会で毎月会議を開催し「生育状況」や「出荷時期」の情報交換を行い「みやこ町産野菜」を22.1%使用できた。</p> <p>○有害鳥獣として捕獲した猪や鹿肉を地産地消として8月に試食会を開催、翌年3月に学校給食として「みやこ肉カレー」の提供ができ、好評であった。</p> <p>○毎月19日は「食育の日」にちなみ、地場産野菜を取り入れた学校給食を配食するとともに、献立表にも地場産野菜を紹介し保護者に啓発を行っている。また、毎日、給食の写真とその日の地場産物をフェイスブックで紹介している。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>今後も地場産農産物の使用を増やしていく。</p>	A	A	B	A	<p>●地産地消、ジビエ料理の提供などよい取り組みである。給食に関する施策は年々充実してきており好評である。</p>
食	指導体制の	○3校の児童に対して、学校給食セ	A	A	B	B	

	育 の 推 進	整備と指導 の充実	<p>ンターでの調理作業の見学会を実施し、また、町議会議員 6 名 勝山地区民生委員 18 名 豊津地区高崎区民 12 名 福岡県内教育事務所各地区給食担当指導主事 7 名の視察を受け入れ、「食育の説明」、「施設の状況」、「試食」を行う事で食育の推進に努めた。</p> <p>○「給食カレンダー」を毎週発行し、毎日の献立内容について知らせたいポイントを掲載することで食育の推進が図れた。</p> <p>○みやこ町の全小学校に対し、栄養士が学校訪問を行い「成長期に必要な栄養」や「食事のとり方」について指導を行った。</p> <p>○栄養士が学校へ出向き、保護者対象の給食試食会で学校給食の意義や食の大切さを情報発信した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も栄養士による学校訪問を計画的に実施するとともに、指導内容や訪問回数、訪問時期が適切であるか検討していく。</p>						
	家庭、地域、	○小・中学校長代表、小・中学校の	A	A	B	B	●食物アレルギーへの対		

		<p>関係機関の連携した取組の充実</p>	<p>P T A代表、小・中学校給食担当教諭、学校給食センター職員で構成する献立委員会議を10回開催し、「旬の食材を使った献立」、「各県の郷土料理」、「各国の料理」を説明することで連携した取組みができた。</p> <p>○小学校に入学する新1年生の保護者に「学校給食について」(学校給食の目標、栄養管理、使用食材等)の便りを配付し家庭へ周知ができた。</p> <p>○平成25年6月から毎日の給食内容をフェイスブックに投稿し、保護者に子供がどんな給食を食べているか確認できるようにした。</p> <p>○「みやこ町学校給食における食物アレルギー対応実施要綱」に基づき、食物アレルギー症状のある児童・生徒の保護者、学校、給食センターで面談を行い、医師の診断書のとおり乳製品の食物アレルギー対応給食(除去・代替食)を実施した。</p> <p>《今後の課題》</p>					<p>応も配慮の行き届いたものと判断する。</p>
--	--	-----------------------	--	--	--	--	--	---------------------------

			○近隣市・町の食物アレルギー対応給食の実施状況を直視し、対象品目の追加を検討していく。					
--	--	--	---	--	--	--	--	--

2 生涯学習のための環境整備

施策の方針	身近な場所で、気軽に自由に生涯学習に取り組むことのできる環境づくりと、参加したくなるプログラムの開発を進め、「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」自主的に学ぶことができる多様な学習機会を提供します。						
主要施策	主要事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」学ぶことができる学習機会の提供	あらゆる年齢層への学習機会の提供	<p>○高齢者大学を次の5地区で開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝山たちばな大学（10回開催、申込者59名、延べ参加者250名：対前年度78名減） ・犀川地区ふれあい大学（8回開催、申込者145名、延べ参加者423名：対前年度70名減） ・城井地区さわやか大学（7回開催、申込者58名、延べ参加者201名：対前年度15名減） ・伊良原地区ふれあい大学（7回開催、申込者62名、延べ参加者246名：対前年度48名増） ・豊津平成学級（10回開催、申込者59名、延べ参加者238名：対前年度14名増） <p>○女性学級を次の3地区で開催し</p>	A	B	B	B	<p>●高齢者大学の参加者数が減少している。減少の原因を分析し、改善策を検討、実施してほしい。</p> <p>●「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」という方針をいっそう実体化するために、人員配置や開催地区など工夫されたい。</p> <p>●修了証や評価（通信簿）など、参加者にフィードバックする方法も、参加者のモチベーションを高めるとともに、参加者を増やすことにも繋がるのではないかと考える。</p>

		<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝山女性学級（13回開催、申込者 41 名、延べ参加者 327 名：対前年度 27 名増） ・犀川女性学級（10回開催、申込者 92 名、延べ参加者 427 名：対前年度 22 名増） ・豊津女性学級（10回開催、申込者 59 名、延べ参加者 385 名：対前年度 8 名増） <p>○なかよしクッキング（2回開催、延べ参加者 42 名：対前年度 24 名増）、ふれあいスポーツ（11回開催、延べ参加者 232 名：対前年度 23 名減）を開催した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○課題である高齢者大学や女性学級の合同開催については、開級式・閉級式のほか、年一回、合同事業を実施する。28年度の結果を踏まえ、今後も、一本化等について検討していく。</p> <p>○健康寿命の延伸をめざし、スポーツ活動と併せて、生きがいづくりでの文化活動の推進を行</p>				
--	--	--	--	--	--	--

		っている。特に高齢者大学の参加者の増加に向けた学習機会の充実が課題である。					
	教養・趣味向上のための各種講座の充実～文化健康講座、IT ¹ 講習など	<p>○文化健康講座（14講座を5月～3月開催、申込者231名、延べ参加者2,757名:対前年度1,045名減）、パソコン講習（11月～2月開催、申込者130名、延べ参加者537名:対前年度45名増）を開催した。新規事業として、パソコン講座後期受講者相談会を開催し、直接講師に相談し、受講講座選択に寄与した。（参加者30名）</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○参加者少数の講座の見直しを行い、幅広い学習機会を提供していく必要がある。また、新しい会員の掘り起しや自主サークルへの移行などを指導して行く必要がある。</p>	A	B	B	B	●高齢者大学と同様、減少の原因や受講者のニーズを分析し、改善策を講じるよう望む。
生涯学習環境の整備	生涯学習情報提供の充実	○町広報、防災行政無線、駐在員会議等を活用し、高齢者大学、女性学級、文化健康講座等の開催の周	A	B	B	B	●広報は随時行われ、周知されていると判断する。

¹ IT：情報通信技術。

		<p>知を図った。</p> <p>○フェイスブックを利用し、活動内容等の紹介を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○生涯学習情報を広く住民に提供していくため、町広報、防災行政無線の他、駐在員会議などへのチラシの配布等による周知徹底を図る。</p>					
	社会教育団体等への支援	<p>○町子ども会育成会連合会へは事務局として参画した。</p> <p>○町婦人会・諫山校区アンビシャス広場に活動助成や支援をしている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○社会教育関係団等との連携により、子どもの育成や地域の活性化につなげていく。</p> <p>○組織の弱体化がみられる団体もあることから支援内容の検討も必要である。</p>	A	B	B	B	
地域人材	アンビシャス広場の推進	<p>○諫山校区、祓郷校区、節丸校区犀川本庄地区にアンビシャス広場が開設されている。それぞれ自主活動として、地域の中で</p>	A	B	B	B	<p>●地域人材の活用をいっそう推進していただきたい。学校の負担過重が懸念される。</p>

を 活 用 し た 学 習 内 容 の 充 実		<p>異学年の友達と様々な体験活動をさせることにより、他人を思いやる心や地域を愛する心を育てている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○諫山校区以外のアンビシャス広場の取組は、年々縮小していることから、地域ボランティアやPTA組織、学校などと一体となり、事業の必要性への理解を深めていくことが課題である。</p>					
	通学合宿事業の推進	<p>○規則正しい生活習慣や自主性・協調性を高めてもらうため、町内3か所の施設で実施。黒田小学校6年生31名(3泊4日)、祓郷小学校4年生18名(3泊4日)、諫山アンビシャス広場4年生～5年生の希望者12名(6泊7日)</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○実行委員会を立ち上げ実施する事業であるが、学校、PTA、地域ボランティアが一体となり事業内容や継続していくこ</p>	A	B	B	B	<p>●地区ごとに温度差が見受けられる。地区住民の認識や実施体制・方法を再度検討する必要がある。地域および地域外の高校生や大学等が参加できるような体制も検討願いたい。</p>

			とへの理解を深めていくことが課題である。					
生涯学習の推進	人権尊重の町づくりの推進	<p>○みやこ町人権教育研究会事業として、学校教育部門では4部会に分かれ夏期研修会、2月に各自が実践してきた研究テーマにより実践交流会を実施した。同様に、社会教育・啓発部門では7月の「同和問題啓発強調月間」で啓発活動や「隣保館まつり」、人権講演会を実施し、12月の「人権週間」で啓発活動や「人権のつどい」で人権作品の表彰や講演会等を実施した。2月に町職員、企業を対象に人権朗読会を実施した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○学校と行政そして企業が連携し、様々な課題や問題点について研修を行い、より多くの町民が参加できるように、「人権・同和問題」の啓発活動を見直し、充実を図っていく。</p>	A	B	B	B	●小学生の虐待事例が増加傾向にあることから、虐待の各事例の背景、原因等、人権男女共同参画課を中心に分析し、対応策を講じていただきたい。	
	専門委員との連携	<p><社会教育係></p> <p>○社会教育委員定例会並びに公</p>	A	B	B	B	●活動が衰退している組織も見られ、各委員が課題意識を持ち資	

		<p>民館運営審議会を開催し、生涯学習課各事業や公民館事業等について説明を行った。</p> <p>○京都郡社会教育委員研修会を荻田町で2回開催し、福岡県教育研究大会に2名が参加し、社会教育委員の資質向上を図った。</p> <p>○福岡県公民館実践交流会に3名が参加した。</p> <p>○第57回全国社会教育研究大会大分大会において、本町社会教育委員の長野氏が事例発表を行った。</p> <p>○公民館まつりに社会教育委員の出席を依頼した。</p> <p><文化係></p> <p>○博物館専門委員会・運営委員会を開催し、博物館の展示や各種事業に関する専門的かつ実務的な助言を受けた。</p> <p><体育係></p> <p>○スポーツ推進審議会を開催し、スポーツ基本計画の在り方やスポーツ施設の今後のあり方</p>		<p>質の向上を心がける必要がある。町内で社会教育主事資格、レクリエーション指導、スポーツ指導の実務経験者等、企画力、指導力を有する人材の任用を期待する。</p>
--	--	--	--	---

		<p>について、審議した。</p> <p><図書館係></p> <p>○子ども読書活動推進協議会、図書館協議会を開催し、子ども読書推進計画実施状況調査の報告や事業内容について協議した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○生涯学習推進のため、相互に情報収集に努め、意見を出し合い連携を図って行く。</p> <p>○今後、とくに若者や青少年を対象とした事業を実施するにあたり、専門委員会等の意見を十分に聴き、企画に反映させていきたい。</p>				
--	--	---	--	--	--	--

3 図書館の整備・充実

施策の方針	一般図書に加えて専門的資料や郷土史資料などを収集し、特色のある専門図書館として充実を図るとともに、移動図書館の充実、学校図書館との情報共有、県内図書館との相互ネットワークの連携など、幅広い読書の機会を提供します。 ボランティア活動、文化活動などの交流の場とすることで新しい地域文化の創造を促進します。						
主要施策	主要事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
図書館の利用促進	レファレンスサービス ² の充実と利用促進	○図書館の利用者が学習・調査・研究を行う際の必要な資料情報について調査援助する。 H27年度レファレンス実績 件数 3,140 件：前年度比 129 件減 ○館内研修の実施や各種研修会への参加によりレファレンスの知識・技術の向上を図った。 《課題・今後の方向性》 今後も研修会等の参加により図書館職員のレファレンスの知識・技術を向上させ、サービスの充実を図る。	A	B	B	B	●レファレンスの動向（例えば、高齢者ではPC関連など）を把握し、対応しようとしている。 ●ただし、図書館職員（嘱託含む）の異動が多く、レファレンス力の維持・発展に困難を来している状況には策を講じていただきたい。
	図	学校図書	○学校における調べ学習の対応	A	B	B	B

² レファレンスサービス：図書館利用者が必要な情報・資料等を求めた際に、図書館員が情報や必要とされる資料を検索・提供・回答することによってこれを助ける業務。

<p>書館と学校図書室・関係機関との情報共有・連携</p>	<p>館支援</p>	<p>として、資料の提供は必ず学校司書を通して行うなど一定のルール作りができた。</p> <p>○読書リーダー養成講座では学校司書との連携を図り、読書活動の推進を図った。</p> <p>学校司書との連絡会議等を開き情報の共有がとれた。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も学校司書と情報の共有化に努める。</p>					
<p>広域利用・図書館間協力の推進</p>		<p>○福岡県北東部地域拠点都市整備推進計画及び京築アメリテイ都市圏内の公共図書館の協</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>●町外者の延滞への対応が課題としてあるが、この事業は文化的活動を広げる重要な者であり、市</p>

		<p>定による他市町村住民への資料の貸出や、相互貸借による資料提供をした。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○町外利用者数が増加する中で、町外者による資料の延滞が目立ってきている。図書館資料に対するモラルの低下が目立ち回収にも困難を極めている。これらの点をいかに解消していくかが今後の課題である。</p>					町を超えて、問題解決のための対策会議を持つなど、運営体制の検討も期待する。
	移動図書館による図書提供の充実	<p>○学校、幼稚園・保育所（園）、地域（町内4箇所）で実施。</p> <p>○移動図書館車での貸出実績 平成27年度実績 22,518冊 （前年比 2,393冊減）</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○学校等の貸出数を増やすため、学校との連絡体制の強化を図る。</p> <p>また、貸出率の低い、地域巡回については、地域住民の要望等に対応した運営形態を検討する。</p>	A	B	B	B	●貸出冊数は減少しているが、人口減少、貸出のルールづくりなどがその背景にあり、本事業の提供する質はむしろ向上していると判断する。本事業の展開が、児童生徒の図書館での貸出実績やレファレンス利用に繋がるケースが見られる。
	図 郷土・行	○京築地区及びみやこ町に関連	A	B	B	B	

	書館ホームページの	政資料の整備	<p>のある資料及び行政資料を収集し充実を図った。</p> <p>○図書以外の資料（冊子・パンフレット等）の刊行物の収集に努めた。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○来館者により多くの情報を、より詳しく提供できるよう努力していく。</p>					
	充実	生活情報・地域情報の収集、提供、展示コーナーの充実	<p>○写真展やみやこ町10周年のあゆみなどの展示を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○意見箱により、来館者のニーズを把握し、読書意欲が湧くように展示物を選び工夫しながら充実していく。</p>	A	B	B	B	●子供から高齢者まで、多くの町民に対応していく企画を期待する。
図書館を活用した地域文化活動の促進	児童・青少年の読書活動の推進	<p>○子どもの読書活動推進計画に基づき読書活動の支援や環境の整備に力を入れた。</p> <p>平成28年度で5年計画が終了のため、平成28年度中に、新たに平成29年度からの5年計画を作成する。</p> <p>・各館において図書リストの作成や読書コーナーの掲示方法を</p>	A	A	B	A	●「子ども読書まつり」のように“読書”だけにとらわれず多様な企画で、開かれた楽しい図書館を目指してもらいたい。	

		<p>見直し、整備を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書まつりの実施 (全館でのスペシャルお話会・図書館ビンゴゲーム等の実施) ・夏休みチャレンジ教室の開催 <p>参加者 中央館 34 (23) 名 犀川館 31 (19) 名 勝山館 38 (40) 名 計 103 (82) 名</p> <p>前年度比 21 名増</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○子どもの読書活動の推進を図るため、読書に関する多種多様な内容で開催していく。</p>					
	<p>読書ボランティア等の人材の育成・確保</p>	<p>○読書ボランティア養成講座を開催した。</p> <p>○ボランティアによるお話会を開催した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○障害のある方も利用できるようにボランティアの養成を検討する。</p>	A	B	A	A	

<p>ブックスタート³事業の推進</p>	<p>○平成 23 年度よりブックスタート事業を開催した。</p> <p>○乳幼児健診（4 か月児、1 歳児）で 2 冊の絵本を配付している。</p> <p>○6 名のブックスタート支援員と一緒に絵本の読み聞かせをして丁寧に手渡した。</p> <p>○ブックスタートパック提供数 平成 27 年度 101 件（103 人中）</p> <p>○ステップ 1 ブックス提供数 平成 27 年度 120 件（130 人中）</p> <p>○支援員と担当で定期的な会議を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○4 か月児、1 歳児を継続して、絵本と読み聞かせの重要性を説明し、赤ちゃんと保護者も含め図書館利用者の増加をめざし、事業の充実を図っていく。</p> <p>○健康づくり課と連携し対象者全員への配付となるよう努力していく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>●保護者に本のおもしろさ、読み聞かせの効果等、ゲームや TV より心に響くことを知らせてもらいたい。</p>
---------------------------------	---	----------	----------	----------	----------	---

³ ブックスタート：自治体が行う 0 歳児健診等で、絵本を開く楽しい体験とともに、赤ちゃんに絵本を手渡す活動。

<p>地域文化活動 促進事業の推 進</p>	<p>○読書週間関連事業でミンダナ オ子ども図書館長・絵本作家 松居 友 講演会 参加者 76名 《課題・今後の方向性》 ○講演会のアンケート結果から 参加者の反応は概ね好評であ った。 しかし、あらゆる手段を講じて 広報活動を行ったものの目標 とする参加数に達することが できなかった。より多くの人に 参加してもらえるよう講演会 のあり方・内容等を再検討する 必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>●読書活動を基本に、講演会、演 奏会、あるいはみんなで楽しむリ クリエーションなども加えて「読 書」の魅力を伝える工夫を今後と もおこなっていただきたい。</p>
<p>職場体験事業</p>	<p>○中央図書館 中京中学校 2年生1名 ＜初任教諭体験活動研修＞ 青豊高校教諭 1名 育徳館高校教諭 2名 育徳館中学教諭 1名 ○犀川図書館 犀川中学校 2年生2名 ○勝山図書館 犀川中学校 2年生2名</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>A</p>	<p>●限られた環境（人員等）のなか で、受け入れ努力をおこなってい ることが理解できる。</p>

		勝山中学校 2年生1名 黒田小学校 6年生3名 《課題・今後の方向性》 ○学校と連携を取り合い、積極的に教諭の研修や生徒の職場体験を受け入れていきたい。					
--	--	---	--	--	--	--	--

4 博物館・文化財の整備・充実と芸術文化の振興

施策の方針	歴史民俗博物館を拠点として、地域・学校と連携した学習活動、史跡などを利用した交流活動、郷土文化の振興を図る文化活動を推進し、地域文化の幅広い後継者の育成に努めます。						
主要施策	主要事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
町内の文化財の有効活用	国府跡公園・国分寺跡公園の活用	<p>○文化財を活用したイベントとして、6月に豊前国府跡公園において「豊前国府まつり」を実施し、2月に豊前国分寺跡公園において「三重塔まつり」を実施した。いずれのイベントも地元区と協力・連携して実施した。</p> <p>国府跡公園・国分寺跡公園の清掃業務を地元区に委託し、地域住民と協働して管理を行った。</p> <p>○有効活用の前提として、歴史公園の定期的な見まわりを実施し、必要に応じて修理・補修等を行った。平成27年度において、歴史公園内における事故の報告は無かった。</p> <p>○その他文化財の有効活用</p>	A	B	B	A	<p>●新しい企画を考えマンネリ化しないように工夫を期待する。たとえば、「豊前国府まつり」など地域の伝統行事の実演など地域住民参加型の内容も検討を願いたい。</p>

		<p>①国重要文化財「永沼家住宅」の保存管理・公開活用等業務を永沼家住宅保存協力会に委託し、地元住民と協働して、管理・活用をはかった。</p> <p>②勝山地区の古墳（指定文化財）の清掃について、地元区等に委託し、協働で維持管理を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○国分寺跡公園の再整備について、引き続き文化庁・県文化財保護課とも連携しつつ、望ましい整備計画を調整していく。</p> <p>○気軽な観覧が難しい有形文化財資料について、文化庁の補助事業を利用した、対象資料のデジタル化やインターネットによる公開事業に着手したことから、これの拡充を図りたい。</p>					
	<p>史跡案内板の設置</p>	<p>○老朽化が進んでいた豊前国分寺跡公園の誘導板を更新した。</p> <p>○有形文化財や史跡情報を収蔵する博物館の誘導板も更新・拡充した。</p>	A	A	B	A	<p>●他市町の訪問者のためにも有効な対応である。広範囲に設置することを期待する。</p>

		<p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○国県町指定の文化財だけではなく、見学者が多く注目度の高い文化財についても、今後計画的かつ継続的に案内板の設置を進めたい。</p>				
歴史民俗博物館の事業振興と機能強化	博物館資料収集・展示事業・教育普及事業	<p>○資料収集事業</p> <p>改修に伴う展示改装にあたり、新たな資料の寄贈や寄託を関係各位からいただいた。主な資料は次のとおり。</p> <p>① 西郷文書 [個人] (当地では希少な中世文書)</p> <p>② 豊国楽資料 [高木神社] (町指定民俗芸能の関係資料)</p> <p>③ 黒田楽打子装束 [保存会] (同上)</p> <p>④ 進文書 [個人] (城井宇都宮氏関係文書類)</p> <p>⑤ 上伊良原神楽資料 [保存会] (神楽文書、装束資料等)</p> <p>なお、25年度に寄贈された小宮豊隆資料は町の文化財に指定し、保存・活用により一層の充実が図られるようにした。</p>	A	A	B	A

		<p>○展示事業</p> <p>常設展示の全面的リニューアルを行い「小宮豊隆記念展示室」「先人の殿堂」「みやこの土の中」「みやこの中世・近世・近代」「みやこの祈り・祭り・語り」「ちょっと昔の道具たち」など6コーナーを設けた。展示室をリニューアルした直後なので企画展は実施していない。</p> <p>○教育普及活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史講座年間受講者数 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>古典かな講座</td> <td style="text-align: right;">227名</td> </tr> <tr> <td>漢詩紀行講座</td> <td style="text-align: right;">109名</td> </tr> <tr> <td>古文書講座</td> <td style="text-align: right;">134名</td> </tr> <tr> <td>金曜古文書講座</td> <td style="text-align: right;">143名</td> </tr> <tr> <td><u>みやこ学講座</u></td> <td style="text-align: right;"><u>183名</u></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">796名</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(前年度比 47名増)</p> <p>○小中学校学習支援</p> <p>博物館や町内文化財の見学説明及び出前授業を実施した。</p> <p>延べ対応件数 31件</p> <p style="text-align: right;">(前年度比 3件増)</p> <p>延べ対応人数 915名</p>	古典かな講座	227名	漢詩紀行講座	109名	古文書講座	134名	金曜古文書講座	143名	<u>みやこ学講座</u>	<u>183名</u>	計	796名		<p>●小中学校の利用、博物館観覧者も増加し、職員の企画や対応の良さがうかがえる。今後も充実が期待できる。</p>
古典かな講座	227名															
漢詩紀行講座	109名															
古文書講座	134名															
金曜古文書講座	143名															
<u>みやこ学講座</u>	<u>183名</u>															
計	796名															

		<p>(前年度比 8 名減)</p> <p>○博物館観覧・利用・参加者数 平成 27 年 11 月 22 日～ 平成 28 年 3 月 31 日 合計 3,553 名 (平成 25 年度同期比 692 名増)</p> <p>※各種学習支援・各種行事等を含む</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○平成 27 年 11 月にリニューアルオープンをし、展示も刷新した。これを機に博物館の新たな魅力を情報発信していく。</p>					
	博物館友の会 運営事業	<p>○博物館友の会は、独立採算で各種文化事業を行った。平成 27 年度の会員数は約 180 名で、設立 20 周年記念を兼ねてバスハイク等 14 事業を実施した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○広報活動を活発化して、新規会員、とくに若年層の入会促進が必要である。</p>	A	A	A	A	●例年、好評な企画である。企画に工夫を凝らし継続してもらいたい。
	刊行物の作成	<p>○博物館だより 8 回発行（臨時休館中は隔月、開館後は毎月発行）</p>	A	B	B	B	●臨時休館中の隔月発行を理由に「B」評価であるが、やや厳しい自己評価であると考える。

		<p>町内全戸配布 他博物館へ郵送</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○博物館だよりの発行は毎月継続して行う。新しい常設展示図録を作成するなど、必要な印刷物の作成は今後も計画的に行う。</p>					
	ホームページの運営	<p>○ホームページ「みやこ町デジタルミュージアム」の運営を行い、文化財・博物館情報の発信を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○こまめに更新を行い、情報揭示の迅速化を心がける。</p>	A	B	B	B	<p>●掲載内容を小中学生にもわかりやすく、写真などの資料も増やし、四半期に一度程度は更新してもらいたい。本を転写しただけの見づらい資料もある。抜本的にリニューアルの必要がある。</p>
	他博物館との事業支援と連携	<p>○他館へ資料貸出や情報提供を実施。主な提供先は次の通り。</p> <p>①宗像市教育委員会 (徳永川ノ上遺跡出土資料)</p> <p>②福岡県立九州歴史資料館 (僧形八幡神像、小笠原文庫)</p> <p>③北九州市立文学館 (小宮豊隆資料)</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○歴史的に縁のある自治体の博</p>	A	B	B	B	<p>●近隣地域との連携は、研究および保存継承活動のみならず、参観者や学習者にとっても大切な事業だと考える。</p>

		物館・資料館と協力連携協定を結ぶことも検討したい。					
遺跡・文化財の整備推進	開発行為による遺跡破壊の防止・調査	<p>○各種開発事業に対応した保存対応の調査や調整を行った。</p> <p>①試掘・確認調査：2件</p> <p>②工事立会：1件</p> <p>③発掘調査：2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊前国府御所地区（2次） ・花熊三ツ塚古墳群 <p>○旧町実施の発掘調査に伴う調査報告書刊行のため、国庫補助事業による整理作業を行った。 （大熊条里・黒田エノヲ遺跡）</p> <p>○平成24・25年度に、林道建設に伴い実施した蔵持山修験道遺跡の発掘調査について、調査報告書を刊行した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○旧町実施の発掘調査で、調査報告書が未刊行のものについては、国庫補助事業で平成30年度までに完了することで文化庁・県と協議済み。みやこ町発足後に行った発掘調査の報告書はそれ以後順次刊行予定で</p>	A	A	A	A	●着実な取り組みがおこなわれていると判断する。

		ある。					
文化財の適切な整備	<p>○町指定文化財「庄屋塚古墳」に法面崩壊の進んだ箇所があり、この回復および隣地安全確保のための補修に向けた工事設計を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○平成 24 年度の文化財保護委員会答申にもとづき、文化財の適切な整備を進める。</p>	A	A	B	B		
伝統芸能及び伝統文化の保存、継承	<p>○豊前神楽の国の文化財指定を受け、町内神楽の追加指定や保存対策強化に向け、県とも協力して関係会議や対応調査の準備を行ったほか、関係備品（道具や装束等）の購入事業を支援・協力した。</p> <p>○指定文化財保存団体に対し、人的・物的な補助や協力を行い、文化財の保存・継承活動を支援した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○旧町単位で指定文化財のレベルにばらつきがあり、一定程度の時間をかけて、その解消に向</p>	A	B	B	B		

		<p>けた取り組みが必要である。</p> <p>○高齢化の進展に伴い、地域振興部局と連携をはかりながら、とくに民俗文化財の保存・継承にむけた取り組みが必要である。</p> <p>また、消滅や再興にそなえ、映像・音声等の記録保存の必要がある。特に神楽については、国文化財の追加指定に向けた調査や支援活動など、県や関係団体との協力・協働が必要である</p>					
総合的な文化振興事業の推進	文化振興条例の制定と文化審議会の設置	<p>○平成22年度に開催した「文化を活かした町づくり検討会議」の提言に基づき、各種文化振興事業（古墳まつり、歴史文化カレッジ等）に取り組んでいる。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○文化振興条例、文化審議会の制定・設置に関しては、引き続き必要な調査を行っている。</p>	B	B	B	B	
	文化協会等による文化・芸術活動の支援	<p>○みやこ町文化協会の活動に対して補助金を交付するとともに、発表会の際などに人的な支援も行って、文化・芸術活動の振興につとめた。</p>	A	A	B	A	

		≪課題・今後の方向性≫ ○引き続き、文化協会の自主性、 独立性を維持するために必要 な支援を行う。					
	文学を活かし た文化振興事 業の実施	○第30回少年少女俳句大会を 開催した。 応募人数・句数 小学生 4,058名 9,059句 中学生 2,021名 4,714句 <hr/> 合計 6,079名 13,773句 (前年度比 1,246名・2,626句増) ≪課題・今後の方向性≫ ○引き続き、少年少女俳句大会 の、より一層の普及・発展につ とめる。	A	A	A	A	●管内小中学生の4割程度が参加 していることになる。すばらしい 成果である。

	<p>その他の芸術 文化振興事業</p>	<p>○文化遺産を活かした地域活性化事業（文化庁補助事業）を活用し、小宮豊隆資料のデジタル化と児童・生徒向けの文化遺産パンフレットを作成した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も町史や文化遺産のデジタル化を進め、インターネット等により情報発信する。</p>	A	A	B	A	<p>●児童生徒のための地域教材の充実や、住民のための地域文化の継承等に対して重要な事業だと判断する。</p>
--	--------------------------	---	---	---	---	---	---

5 スポーツ・レクリエーションの推進

<p>施策の方針</p>	<p>スポーツ・レクリエーション活動は、住民の体力づくりだけではなく、住民相互の交流を生む機会として重要です。総合型地域スポーツクラブや体育協会・スポーツ推進委員による活動を通じて、誰でも、いつでも気軽に参加することができるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。</p> <p>また、既存のスポーツ施設には老朽化が進んでいる施設があり、施設の適正な維持管理に努めるとともに、住民の様々なスポーツ活動のニーズに対応した複合的な活用のできるスポーツ施設の整備を進めます。この他、競技スポーツについても体育協会を中心として推進・強化を図ります。</p>						
<p>主要施策</p>	<p>主要事業</p>	<p>内容・成果</p>	<p>評価</p>				<p>外部評価</p>
			<p>有効性</p>	<p>効率性</p>	<p>達成度</p>	<p>総合評価</p>	
<p>住民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進</p>	<p>スポーツ推進計画の策定</p>	<p>○スポーツ推進審議会で、国、県のスポーツ振興基本計画などの資料により検討した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○平成28年度から5年間の第2次みやこ町総合計画を作成し、スポーツ振興計画に置き換え、誰でも、いつでも気軽に参加できるスポーツ・レクリエーション活動を推進していく。</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	
	<p>子どもと高齢者の体力づくりの推進</p>	<p>○幅広くスポーツに親しめるように体育協会、スポーツ推進委員と連携し、スポーツフェスタ・マラソン大会・チャレンジデーなどを実施した。</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>●他の課とも連携し幅広い年齢層でスポーツに親しむ機会を設けている。</p>

		<p>○町立保育所年長・年中を対象にリズム体操教室を年間 22 回実施した。</p> <p>○ソフトバレーボール大会やゲートボール大会、剣道大会など B&G 会長賞として幅広い層の大会として実施した。</p> <p>○スポネット TOYOTSU（総合型地域スポーツクラブ）が、ジュニアプログラムにより年間 35 回程度各種スポーツ活動の実践を行った。また、シニア体力アップ事業として、年間 46 回実施している。更に、小学校より指導者派遣依頼を受け、クラブ活動指導者の派遣を行っている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○みやこ町健康づくり推進条例により、みやこ町健康づくり推進委員会と連携し、健康づくり課や介護福祉課と一緒に、0 歳児から高齢者までの切れ目のない健康づくり・支援体制の構築を推進していく。</p>					
--	--	---	--	--	--	--	--

	スポーツ・レクリエーション活動の推進	<p>海洋性スポーツの普及</p> <p>○町広報誌や各団体に体験教室の募集を行い、7月・8月に各学校・子ども育成会等の5団体他、延べ295名が犀川本庄池でカヌー・ヨット教室に参加し、海を持たない町で、海洋性スポーツ・レクリエーション体験を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○指導者の確保が困難であり、今後も指導者養成を推進していく。</p> <p>○B&G艇庫の舟艇・機材についても老朽化しており、修繕等が必要になってきている。</p>	A	B	B	B	<p>●本事業を支える指導者及びスタッフは、本町職員全体の協力で賄っているが、職員に過重な負担がかかっている現状がある。早急に検討されたい。</p> <p>●機材等の老朽化も進んでいる状況があり、上記の人員の問題を含め、本事業のこれまでの成果と今後の方向性について検討が必要だと考える。</p>
	競技スポーツの振興	<p>○競技スポーツは、主に体育協会加盟クラブが競技大会や審判講習会等を開催することにより振興している。</p> <p>○さわやかマラソン大会兼京都郡ロードレース大会は1,000人を超える申し込みがあり、945人の参加となった。</p> <p>○京築陸上競技協会などが4種公認豊津陸上競技場を利用し競技大会を開催している。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p>	A	B	B	B	<p>●各競技とも実施内容が良く好評である。主催者の努力の結果である。</p>

		○2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」、2019年の「ラグビーワールドカップ」開催の関連事業などを活用し、これからトップを目指す競技者への刺激とするため、元オリンピック選手などトップアスリート等の招聘を検討する。				
スポーツ推進委員等によるニューススポーツの普及・推進	<p>○スポーツ推進委員による「みんなで楽しく遊ぼうデー」や「ふれあいスポーツ教室」を犀川体育館と勝山体育館で毎月1回実施した。</p> <p>○スポネット TOYOTSU（総合型地域スポーツクラブ）との連携によりジュニアプログラムやシニア体力アップ事業などに参画すると共に小学校へは指導者として協力した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後、健康づくり課や介護福祉課と連携し、町民の健康寿命を延ばす事業として、町全体で推進していく。</p> <p>○スポネット TOYOTSU（総合型</p>	A	B	B	B	<p>●推進委員の活動を中心に、各種スポーツが普及していることを評価する。</p> <p>●ただし、町内のスポーツ・リクリエーション事業の担当部署・機関の融合・統合をし、事業の重複を改善する時期にきていると判断する。財政的問題、人口減少問題、あるいは町職員の配置などを考慮し、事業の方向性や効果的な運営を検討していただきたい。</p>

		地域スポーツクラブ)は会員制で自主的な活動を行っているが、今後もスポーツ推進委員と連携した事業展開が求められる。					
	スポーツフェスタの充実	<p>○「スポーツフェスタINみやこ2015」としてアジャタ・町民ウォーク・ソフトボール・卓球・軟式野球・バレーボール・グラウンドゴルフ・登山教室等を実施した。</p> <p>○総合開会式では、みやこ町民の歌「花ひらく」を利用した、みやこ町スポーツ推進委員考案によるみやこ町民体操を発表披露し参加者全員による準備体操を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○少子高齢化が進む中においても、町民誰もが参加しやすい内容にするなど検討していく。</p>	A	B	B	A	●町民誰でも気軽に参加、観覧できるような「町民体育祭」の開催を望む。
競技スポーツの推進	体育協会によるチャンピオンスポーツの実施支援	○体育協会が主催として、陸上、卓球、バレーボール、軟式野球、ソフトボール、水泳、ソフトバレーボール、サッカー、空手、剣道、バドミントン等の競技スポーツ	B	B	B	B	

		<p>活動を振興している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○京都郡大会や県民体育大会などに町代表選手の派遣を行っている。 ○全国大会出場助成は体育協会の規定により行っている。 ○合併 10 周年記念イベントとして、バレー教室とサッカー教室を実施した。 <p>バレー教室では、女子バレーボール元日本代表の 3 名を招致し、一人は、みやこ町出身の吉田さんに講師をお願いし約 130 名の参加があった。</p> <p>サッカー教室では、ギラヴァンツ北九州の選手とコーチを招致しサッカー教室を開催、約 180 名の参加があった。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体育協会会員の減少がみられるので、組織の強化を図るとともに体育協会全体での取り組みによる事業の活性化を図る。また、チャンピオンスポーツへの支援体制について、競技していく。 					
--	--	---	--	--	--	--	--

<p>体育施設の利用促進のための施設整備とネットワークづくり</p>	<p>複合的な活用を考えたスポーツ施設の整備</p>	<p>○豊津運動公園内に第4種陸上競技場、体育館、プール、トレーニングセンターなどがあり、さわやかマラソン大会や隣接の菖蒲園などのまつりにも利用されている。昨年度に続いて豊津運動公園の樹木伐採により、見通しを良くしウォーキングなど公園利用者の利便性を図った。</p> <p>○犀川体育館・中央公民館・周辺駐車場を利用し、産業祭・ミュージックストリート・ジビエ祭等を行った。</p> <p>○犀川運動公園は、野球場・グラウンドゴルフ場・ゲートボール場・多目的グラウンドと併せ体育館もあり毎年少年サッカー大会やソフトボール大会など京築や近郊大会の主会場となっている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○補修工事や修繕等が必要となってきた。予算的に厳しい状況ではあるが、施設の適正な維持管理に務め整備を進めていく。</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>●各種の公立施設が、ほぼ旧3町のままである。施設の管理を民間委託にしたり、他の用途に転用、老朽化した施設は使用中止などを、現況調査のうえ統廃合も視野に、検討を願いたい。</p>
	<p>海洋性スポー</p>	<p>○7・8月に犀川艇庫（本庄池）で</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>●海洋性スポーツ施設は管</p>

	<p>ツ・レクリエーション施設(B & G財団)の利用促進</p>	<p>カヌー・ヨット教室を実施した。</p> <p>○豊津ミニ艇庫(節丸裏ノ谷溜池)にて親子釣り教室&大会実施。</p> <p>○B & Gプール(利用者 6,747名:対前年度 323人増)にて水泳教室を実施。小中学校・保育所の授業による利用(無料)、夏休みに無料利用券発行1人6枚(学校プール無い学校)</p> <p>○B & G体育館(利用者 46,698名:対前年度 2,460人減)、学校行事・部活動など利用(無料)、各種団体(子ども会、老人会など)への使用料減免措置の実施。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○施設が老朽化しているものの、清掃や修繕などを行い30年が経過しているが比較的整備されている。各館とも貸館業務が主となっていることから、高齢者対象の教室や研修会などの企画が必要である。</p>				<p>内に少ない。維持管理の苦労もあろうが今後も継続してもらいたい。</p>
--	---------------------------------------	--	--	--	--	--

指導者の育成	スポーツ・レクリエーション指導者の育成	<p>○B&Gリーダー研修を実施し4名を育成し、3名を再登録、12名を更新した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○現在、指導者としての登録は増えているが、リーダーを育成する指導者のレベルアップやその後継者づくりが必要、今後、B&G財団が主催する指導者養成研修等への派遣も検討する必要がある。</p>	A	B	B	B	
--------	---------------------	--	---	---	---	---	--

平成 28 年度 みやこ町教育委員会自己点検・評価（平成 27 年度対象）に対する外部評価委員会の所見

外部評価委員長 木山 徹哉（九州女子大学 人間科学部教授）
委員 中谷 秀俊（教職員経験者 中学校長経験者）
委員 大八木 孝之（教職員経験者 県立高等学校長経験者）

みやこ町教育委員会が平成 27 年度に取り組んだ活動について自己点検・評価をおこなったが、その点検・評価に対して外部評価委員会は 3 回に亙る委員会において慎重に審議した結果、以下の所見を述べる。

1. 外部評価の意義、並びにみやこ町教育委員会点検・評価の方法

『地方教育行政の組織および運営に関する法律』の一部改正（平成 20 年 4 月施行）により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、報告書を作成し、議会に提出するとともに、情報公開の一環として広く市町村住民に公開することにより、住民に対して説明責任（アカウントビリティ）を果たすことが求められることとなった。

みやこ町における自己点検・評価及び外部評価は今年で 5 年目を迎えた。今年度の点検・評価及び外部評価は、基本的には前年度までの内容及び方法をほぼ踏襲して、平成 27 年度の教育委員会活動を、Ⅰ. 教育委員会の活動、Ⅱ. 教育委員会が管理・執行する事務、Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務、の 3 つに区分し、それぞれについて教育委員会の活動の進捗・達成状況等を点検・評価している。その中で、とりわけ「Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」に係る主要施策・主要事業、並びに各活動については、「みやこ町総合計画 後期基本計画（2012～2016）」の基本施策に対応している。この基本施策は、「学校教育における学習環境の充実」、「生涯学習のための環境整備」、「図書館の充実」、「博物館・文化財の整備・充実と芸術文化の振興」、「スポーツ・レクリエーションの振興」の 5 つの施策から構成され、各々に主要施策並びに主要事業が設定されている。

以上の各施策並びに事業の達成に向けて実施された活動（取組）に対して点検・評価を実施している。

各評価項目（取組）に対する点検・評価並びに外部評価にあたっては、「Ⅰ. 教育委員会の活動」及び「Ⅱ. 教育委員会が管理・執行する事務」については、各取組の実施状況に対して、評価基準を「A.達成できた」「B.おおむね達成できた」「C.達成できなかった」の3段階評価として教育委員会が自己点検・評価したものを、項目ごとに外部評価委員がその内容を確認し、別紙評価シートに評価を記載するとともに、以下の所見で総合的評価を記載する形を採っている。また、「Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」については、「有効性」、「効率性」、「達成度」の観点及びそれら3つの「総合」という、合わせて4つの観点が設定されている。そして、「有効性」の観点から「A.有効である」「B.おおむね有効である」「C.あまり有効でない」、また「効率性」の観点から「A.実施できている」「B.おおむね実施できている」「C.実施できていない」、「達成度」の観点から「A.期待を上回る」「B.おおむね期待通り」「C.期待を下回る」、最後に「総合評価」として「A.B.C.」の、それぞれ評価判断基準を設けた。この評価方法による各項目の点検・評価の結果について、外部評価委員会は、2回に亘る聞き取りにおいて各担当部署に具体的な説明を求め、別紙評価シートにできる限り簡潔にその評価を記載するとともに、以下の所見において詳細に述べている。

2. 「教育委員会の活動」及び「教育委員会が管理・執行する事務」に対する外部評価

ここでは、上記「Ⅰ. 教育委員会の活動」及び「Ⅱ. 教育委員会が管理・執行する事務」に係る取組について所見を述べる。

[1] 教育委員会の活動

(1) みやこ町教育委員会会議の運営、公開等

①教育委員会の会議運営等について

会議は定例11回、臨時6回が開催され、適切な運営がなされていると判断する。

②教育委員会の会議の公開等に関すること

これまでの外部評価において、教育委員会の会議をはじめ、自己点検・評価や外部評価に関する情報の公開、並びに会議の傍聴を促す取組を積極的に推進してほしい旨指摘してきた。そうした指摘に対応して、平成25年度以降、教育委員会の開催についてホームページに掲

載し周知を図っているほか、外部評価委員会に傍聴席を設置するなど、公開を旨とする努力が継続的に行われている。また、今年度も外部評価委員会には教育委員長も出席したことなど、外部評価に対するみやこ町教育委員会の真摯な態度として評価したい。

今後、さらに情報公開や住民の積極的関与のための環境をつくる努力を期待する。

③教育委員の自己研鑽、並びに学校等教育施設に対する支援等に関すること

県内あるいは京築地区で実施された研修会、並びに各学校で開催された研究発表等への参加については、基本的に実施されていることが確認された。また、昨年度に引き続き、全国規模で開催された研究協議会への参加も行っている。今後は、研修会や研究協議会への参加による知見（情報等）を確実にフィードバックし、みやこ町の教育行政や教育実践の改善・改革に結びつけるよう一層の研鑽・研修の充実を期待する。

また、域内における学校訪問については、小中連携の訪問方式を採用し、内容・方法の改善を図っていることが確認されたが、可能な限り「日常の教育活動」の視察と現状把握に努めるよう要望する。

[2] 教育委員会が管理・執行する事務

- (1) みやこ町教育施策について審議・策定し各学校に配布したが、教育委員会の考え方及びその政策遂行について、教育現場や地域住民との間でいっそうの共通理解を図るため、その達成状況や課題について可能な限り丁寧な情報公開を行っていくよう努力していただきたい。本点検評価及び外部評価の公表もその一環であることを改めて確認していただきたい。
- (2) 教育行政の運営の必要上、あるいは各学校及び地域の教育現実等への対応の必要から、適切に諸規則の改正等を行っていると判断する。
- (3) 県負担に係る教職員の人事の内申に関する事項では、小中一貫（あるいは小中連携）を視野に入れた教員の交流及び異動、または小・中両免許状の取得者の採用などの必要性が考えられるが、現時点では学校再編の動きを睨みながらの検討となる。今後の適切な対応を期待する。

3. 「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」に対する外部評価

「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」は、5つに大別された大項目を有する。それは、「学校教育における学習環境の充実」、

「生涯学習のための環境整備」、「図書館の整備・充実」、「博物館・文化財の整備・充実と芸術文化の振興」、そして「スポーツ・レクリエーションの推進」であり、それぞれの大項目のもとにいくつかの主要施策、さらにその主要施策のもとに主要事業が示されている。点検評価は、主要事業の有効性、進捗状況及び成果を確認し評価したものである。以下は、教育委員会による自己点検評価に対して外部評価委員会が実施した評価の所見である。

< 1 > 学校教育における学習環境の充実

標記の大項目のもとに、「学校教育の充実」、「学校施設の整備・充実」、「児童・生徒の安全確保」、「家庭教育の充実」、「山村留学の推進」、「学校給食の充実」の6つの主要施策が設けられている。このなかで、「山村留学の推進」については、平成27年度は事業計画そのものがなく、自己点検・評価も実施していない。したがって、外部評価委員会においても評価対象事項から除外し、かつ評価欄を空欄のままにした。

(1) 学校教育の充実

この主要施策のもとに、「生きる力の育成促進」、「学習環境の確保」、並びに「特色ある学校づくり」の3つの主要事業が示されている。「生きる力の育成促進」については、「基礎学力向上に向けた教育の充実」、「心の教育の推進」、「健やかな体の育成」（新規項目）の3つの取組が、また、「学習環境の確保」については、「生徒指導体制の充実」、「特別支援教育の充実」、並びに「世代間、地域間交流による地域に開かれた学校づくりの推進」の3つの取り組みが、さらに「特色ある学校づくり」については、「小中一貫教育の推進」と「国際感覚を養う教育の推進」、「ICT教育の推進」、「キャリア教育の推進」の4つの取組が、それぞれ実施されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「基礎学力向上に向けた教育の充実」の事業については、全国学力調査の結果が小学校は全国平均を上回り、中学校では改善傾向にあって一定の成果がうかがわれる。この成果は、これまで継続的に取り組んできた少人数学級の実施、複式学級補助、教科指導の強化、教師の実践力強化講座、若年教員に対する指導及び研修などが総合的に結実したものと推察される。また、土曜学習講座の取組は、教育環境に恵まれない生徒に対する学習機会の保障となり、この取組も生徒全体の学力向上に一定の効果があったと考えられる。引き続き、丁寧な取り組みを期待する。
- ② 「心の教育の推進」については、不登校児童の発生数が増加傾向にある。不登校生徒も減少に転じていない。前年度に引き続き適応指導教室（行橋市）との連携などにより丁寧な支援が行われていることは確認した。みやこ町教育委員会の調査によれば、不登校は学校教育に対する不満というよりそれ以外の要因が考えられ、児童生徒に対する指導について家庭にも理解を促すよう努力しているとの報告を受けている。昨

年度の外部評価所見においても指摘したが、今後は、みやこ町独自の適応指導教室等対応機関の設置も検討し、家庭教育との恒常的な連携の基盤をつくり、「心の教育」の環境を整備していただきたい。

- ③ 「生徒指導体制の充実」については、指導主事を2名配置して学校訪問や電話相談、あるいは面談等を行ったこと、また児童・生徒対応講師を配置したこと、さらに教育相談員(1名)を配置したこと、そのほかスクールソーシャルワーカー(SSW)の雇用、スクールアドバイザーの確保など、これらの取組が継続的に行われている。児童生徒の「落ち着き」も見られるようになったとの報告もあり、丁寧な対応が評価できる。
- ④ 「特別支援教育の充実」については、平成25年度以降に取り組んでいる特別支援学級支援員や介助員の配置や、文科省のインクルーシブ教育システム構築モデル事業の実践(2年次)、さらに犀川小学校を拠点校とする通級による指導など、着実な事業展開を評価する。
また、教育支援委員会も、新就学児童生徒の適正就学保障のため丁寧な審査等が実施されていると判断する。今後も、学校・幼稚園・保育園と連携を取りながら、保護者の意図を理解し、かつ情報を共有しつつ事業を展開していただきたい。
- ⑤ 「特色ある学校づくりの推進」事業では、「小中一貫教育の推進」をめざして、先進校や先進地域の視察を実施するとともに、その成果について研修を行ったり、毎月の校長会において情報交換を行ったりするなど、積極的に取り組んでいることが確認された。また、「ICT教育の推進」事業では、平成25年度に設置した学校ICT教育推進委員会を中心に、先進事例の調査分析を行うなど、ICT機器の導入に向け具体的作業を継続している。具体的には、デジタル教科書活用研究指定事業(小学校)及び電子黒板活用研究指定事業(中学校)を実施してICT機器を活用した実践の浸透を図っている。今後は、これらの事業が各学校(教員)へ拡がり、深まっていくことを期待する。

(2) 学校施設の整備・充実

この主要施策では、「小中学校耐震等安全整備」、「統廃合等整備の推進」、「ICT機器の導入等教育環境の充実」の3つの主要事業が示されている。

「小中学校耐震等安全整備」事業については、平成27年度各小中学校の修繕件数150余という数値に示されるように、着実な安全整備が進められていると判断する。

「統廃合等整備の推進」については、学校再編推進プロジェクト等の町組織において協議する段階にあり、いよいよ学校再編の方向性が決まりつつある。今後は、具体的再編の方向性について、また学校運営について、保護者や就学前教育(保育)機関等への丁寧な説明を行い、共通理解のもとに進めていただきたい。学校再編の内容及び方法は、教育施策のあらゆる面に影響を与える。小中学校の老朽化への対応(とりわけ大規模改修)にしても、教員の配置にしても、再編の方向性によっては大きく変わるということは、外部評価委員会の指摘を待たずとも町全体

の共通認識であろうが、学校再編推進プロジェクト等の町組織において丁寧、かつ早急な取り組みを、敢えて願います。

(3) 児童・生徒の安全確保

この主要施策は、「地域・学校の連携の強化」を主要事業として、「あいさつ運動の推進」、「スクールボランティア、スクールガードリーダーの育成及び実践」、「日常的、継続的な学校防犯体制」、「スクールバスの運行、通学区の見直しによる活性化」の4つの取組がなされている。いずれも着実に実施されている。

(4) 家庭教育の推進

主要事業である「保護者の家庭教育の充実」を具体化する取組として、「家庭、地域と連携した生活、学習習慣の形成」が目指されている。昨年度に引き続き、小中学生両方を対象に「No テレビ・No ゲーム」に関するリーフレットを全保護者に配布して、上記の取り組みを強化している。「No テレビ・No ゲーム」の達成状況を校長会並びに教育委員会で情報を共有しつつ、保護者にも確認してもらいながら、進められている。

(5) 山村留学の推進

この主要施策については、冒頭に記したとおりである。

(6) 学校給食の充実

この主要施策では、「学校給食センターの整備・充実」と「食育の推進」の2つの主要事業が展開されている。これら主要事業は、その有効性も確認されており着実に取組が行われている。平成25年度から町独自の給食センターが配食を開始し、全小中学校に配食を実施している。調理員対象及び配膳業務担当者対象の衛生研修を実施したり、衛生管理と調理技術に関する作業マニュアルを作成したりして、安全でおいしい給食の提供に努めていることが確認された。また、みやこ町産米飯給食の拡大をはじめ、地場産農作物の利用を着実に進めていることも評価する。

また食育の推進については、栄養士の学校訪問等による指導や情報提供が計画的に着実に実施されていること、保護者からの意見を広く聴取していること、アレルギー対応にも可能な限り配慮していること、など丁寧かつ継続的な取り組みを評価したい。

<2>生涯学習のための環境整備

この取り組みでは、「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」学ぶことができる学習機会の提供」と「生涯学習環境の整備」の主要施策を推進している。前者には、「あらゆる年齢層への学習機会の提供」、「教養・趣味向上のための各種講座の充実」の2つの主要事業が、後者としては「生涯学習情報提供の充実」、「社会教育団体への支援」、「地域人材を活用した学習内容の充実」、「生涯学習の推進」の4つの主要事業が掲げられている。

「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」学ぶことができる学習機会の提供」では、高齢者、女性、及び青少年をそれぞれ対象とした学習機会を提供するための「ふれあい大学」「さわやか大学」「女性学級」など多様な講座等が前年度に引き続き展開されているが、各事業への参加者数をみると、高齢者大学では減少傾向がみられる。また、文化健康講座も減少している。減少傾向の背景には、人口減少も考えられるが、提供する学習機会（事業）が地域や参加者のニーズに対応しているか、分析する必要があると思われる。昨年度の外部評価において「各講座の運営や講座に対する関わり方には依然として旧町あるいは地域ごとに温度差がみられること」を指摘したところであるが、みやこ町としての一体化を志向し合同開催を増やすことと、各地域や参加者の現実のニーズを改めて分析し尊重することの、両者を視野に入れた現実的対応を再度検討する必要がある。

「生涯学習環境の整備」では、「生涯学習情報提供の充実」、「社会教育団体などへの支援事業」、並びに「地域人材を活用した学習内容の充実」の3つが主要事業として展開されている。

社会教育団体等への支援については、子ども会育成連合会や婦人会等への助成や支援を展開しているが、昨年度に引き続き、少子高齢化に伴う団体組織の弱体化や存続の危機的状況が報告されている。社会教育団体等のリーダーの後継者育成、並びに各団体による主体的取り組みの醸成などに対して教育委員会がいかなる役割を果たし得るか、引き続き検討を願いたい。

「地域人材を活用した学習内容の充実」の「通学合宿事業」については、地区ごとに温度差が見受けられる。地区住民の認識や実施体制・方法を再度検討する必要がある。地域および地域外の高校生や大学等が参加できるような体制も検討願いたい。

「生涯学習の推進」の「人権尊重の町づくり」では、小学生の虐待事例が増加傾向にあることが報告された。虐待の各事例の背景、原因等、人権男女共同参画課を中心に分析し、対応策を講じていただきたい。人権尊重を唱える自治体において、子どもや女性に対する配慮はとりわけ重要であることを、敢えて記しておきたい。

「専門委員との連携」については、活動が衰退している組織も見られ、各委員が課題意識を持ち資質の向上を心がける必要がある。町内で社会教育主事資格、レクレーション指導、スポーツ指導の実務経験者等、企画力、指導力を有する人材の任用を期待する。

＜ 3 ＞ 図書館の整備・充実

図書館の整備・充実施策では、「図書館の利用促進」と「図書館を活用した地域文化活動の促進」の2つの主要施策が展開されている。

図書館の利用促進施策としては、「レファレンスサービスの充実と利用促進」、「図書館と学校図書室・関係機関との情報共有・連携」、「広域利用・図書館間協力の推進」、「移動図書館による図書提供の充実」、「図書館ホームページの充実」（新規項目）の5つの主要事業が取り組まれている。

「レファレンスサービスの充実と利用促進」については、レファレンスの動向（例えば、高齢者ではPC関連など）を把握し、対応しようとしている。ただし、図書館職員（嘱託含む）の異動が多く、レファレンス力の維持・発展に困難を来している状況には策を講じていただきたい。

また、「広域利用・図書館協力の推進」については、昨年度も問題となった「町外利用者による延滞」が引き続き目立ち、回収に困難を極めていた状況が報告された。個人情報の保護のこともあり、課題として残されている。図書館の広域利用という事業の目的から考えれば、町外利用者に対するサービスは重要であり、今後市町を超えて、問題解決のための対策会議を持つなど、運営体制の検討も期待する。

「移動図書館による図書提供の充実」については、前年に比して減少している。貸出冊数は減少しているが、人口減少、貸出のルールづくりなどがその背景にあり、本事業の提供する質はむしろ向上していると判断する。本事業の展開が、児童生徒の図書館での貸出実績やレファレンス利用に繋がるケースが見られる。

また、図書館を利用した地域文化活動の促進では、「児童・青少年の読書活動の推進」、「読書ボランティア等の人材の育成・確保」、「ブックスタート事業の推進」、「地域文化活動促進事業の推進」、「職場体験事業」（新規項目）の5つの主要事業が展開されている。いずれも概ね着実に実施されていると判断する。とくにブックスタート事業については、読書活動推進協議会を中心に保育園・幼稚園とも連携してこの事業の充実に努力していることを評価したい。このような取り組みを継続するとともに、乳幼児健診等の機会を活用し保護者への啓蒙活動にも取り組んでいただきたい。

＜ 4 ＞ 博物館・文化財の整備・充実と芸術文化の振興

「町内の文化財の有効活用」、「歴史民俗博物館の事業振興と機能強化」、「遺跡・文化財の整備推進」、及び「総合的な文化振興事業の推進」の4つが主要施策として示されている。いずれも概ね着実に実施されていると判断する。

みやこ町は、多くの文化財を抱えており、その資料収集・整理、保存、継承、活用、普及などは重要な事業となる。実際に、みやこ町が掲げている主要事業は多岐にわたる。それらの事業の成果や課題のなかから、主な事項を以下に示す。

一つ目は、平成 27 年度にリニューアルオープンした博物館による情報発信活動、応募人数・句数が増加し地域に浸透してきた少年少女俳句大会、あるいは資料のデジタル化やインターネットによる公開など、文化振興に多大な貢献を与える多くの事業が継続的に、かつ発展的に展開されていることは、高く評価できる。

二つ目は、文化財の有効活用について、教育普及活動が継続的に実施されていること、また小中学校学習支援の取り組みも着実に行われていることである。高齢化により文化財の伝承、継承が困難な状況が予想されるなか、地域文化の幅広い後継者育成をめざす観点から、教育委員会と他部局、さらに学校教育機関や地域住民との間のいっそうの連携が望まれる。

いっぽうで、今後努力が期待される点も指摘しておきたい。

「他博物館との事業支援と連携」のいっそうの充実である。27 年度はすでに、宗像市教育委員会、九州歴史博物館などに資料貸出や情報提供するなど展開されたが、今後も近隣の地域とも連携し、相互に支援する活動を発展させていきたい

< 5 > スポーツ・レクリエーションの推進

「住民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進」、「競技スポーツの推進」、「体育施設の利用促進のための施設整備とネットワークづくり」、並びに「指導者の育成」の 4 つの主要施策が示されている。

上記の主要施策全体を支える条件整備にとって、以下の課題が確認された。

第一に、「海洋性スポーツの普及」事業を支える指導者及びスタッフは、本町職員全体の協力で賄っているが、職員に過重な負担がかかっている現状がある。早急に検討されたい。機材等の老朽化も進んでいる状況があり、上記の人員の問題を含め、本事業のこれまでの成果と今後の方向性について検討が必要だと考える。

第二に、「スポーツ推進に委員等によるニュースポーツの普及・推進」では、推進委員の活動を中心に、各種スポーツが普及していることを評価する。ただし、町内のスポーツ・レクリエーション事業の担当部署・機関の融合・統合をし、事業の重複を改善する時期にきていると判断する。財政的問題、人口減少問題、あるいは町職員の配置などを考慮し、事業の方向性や効果的な運営を検討していただきたい。

第三に、「複合的な活用を考えたスポーツ施設の整備」については、各種の公立施設が、ほぼ旧 3 町のままである。施設の管理を民間委託にしたり、他の用途に転用、老朽化した施設は使用中止などを、現況調査のうえ統廃合も視野に、検討を願いたい。

4. 全体所見

これまで主要事業の各取組について評価してきたが、最後に全体所見として2点記しておきたい。

(1) 学校教育、生涯学習等、本外部評価に係る事業および取組全体において、教職員の配置、あるいはスタッフ（人材）の養成と確保の課題は大きい。少子高齢化、人口減少の社会において、地域の諸事業を担う人材の養成と確保は大変困難な課題であろう。しかし、町づくり、人づくりのために重要と思われる施策、事業及び取組について、その有効性を定位するならば、取組を支える人員の養成及び配置は当然ながら計画的に行われるべきであろう。現状では、例えば、図書館のレファレンスサービスに対する住民（子どもも含む）の要求の高まりと活用が見られるなか、それに対応するレファレンス力の維持発展を支える人材確保が懸念される状況がある。また、スポーツその他の社会教育（生涯学習）関連の取組が多様に提供されているいっぽうで、それらの事業を支えているのが町職員総出の「やりくり」であるという状況もある。

2017年以降は、新たな総合計画がスタートし、教育関連事業もそれに対応して動き始めるが、上記の課題はその計画の中で克服されるであろうか。新たなスタートに当たって、いま一度検討をお願いしたい。

(2) 昨年度の所見を再度繰り返す。学校再編がよいよ具体的に動き始めたが、合併の理念、財政状況、並びに組織運営の効率化等に対応する施策・事業の精選及び統廃合の必要性とともに、改めて住民の声としてはなお旧町・旧地区の「親しみ」「思い入れ」「馴染み」があり、この「声」に一定の配慮を望む。みやこ町の「一体化」と、歴史的に醸成されてきた地域及び地域住民の帰属意識や文化・教育活動への思いを尊重すること、この2つをいかに各施策・事業の理念や具体的内容・方法に盛り込むか、大きな課題であるが、検討を重ねていただきたい。